

補足資料 第七章 米国史のより広い文脈で

近代・現代	AA
啓蒙主義	右：敬虔主義・福音主義 左：人間中心・リベラル
理性	信仰
知性	反知性
独立	相互
相対	多元
完全	成長

補足資料 第七章 米国史のより広い文脈で

・ ビッグブックからみる啓蒙主義（理性）の限界①

私たち不可知論者、無神論者は、自分たちが絶えず進歩を続ける神の創造物の先鋒を務める、神の知恵のしもべだとは考えなかった。私たちは人間の**英知**（intelligence）こそが完べきであり、永遠だと信じた。どうもそれはうぬぼれだったようである。

補足資料 第七章 米国史のより広い文脈で

- ビッグブックからみる啓蒙主義（理性）の限界①

私たち不可知論者、無神論者は、人に頼らないでも、**能力**（self-sufficiency）さえあれば自分の問題は自分で解決できるという考えにとらわれていた。だが神に頼ってやってみたらうまくいったという話を人から聞かされているうちに、自分たちはまるでライト兄弟は決して飛ぶことはできないと言い張った人たちと同じではないか、と感じ始めた。

補足資料 第七章 米国史のより広い文脈で

- ビッグブックからみる啓蒙主義（理性）の限界②

私たちのある者は、信仰という希望のある向こう岸に向かって、すでに「**理性**の橋」をかなりのところまで渡りかけていた。・・・私たちは**理性**でここまで来られたことに感謝していた。だがなぜか、対岸に上陸するための一歩を踏み出すことができなかった。**理性**だけに頼って長いこと何とか持ちこたえてきた私たちは、その頼みの綱を失いたくなかった。

補足資料 第七章 米国史のより広い文脈で

- ビッグブックからみる啓蒙主義（理性）の限界③

私たちは、**理性**がすべてではないことを知った。私たちは理性によっていろいろなことをするが、その根本にどんなによい精神があったとしても、何もかも**理性**に頼ることはできない。

第四章「私たち不可知論者は」 p.80

補足資料 第七章 米国史のより広い文脈で

- ビッグブックからみる啓蒙主義（理性）の限界④

これまで僕が長いことその陰に隠れて、震えながら生きてきた**知性**(intellectual)の氷山がこの時解けた。ようやくぼくは太陽の光のなかに立ったのである。

第一章「ビルの物語」 p.18